

# 和歌山県トレセンU-14活動報告

## 第30回関西招待中学生選抜サッカー大会 ガンバカップ

【報告者】 土井和則（和歌山県トレセンスタッフ）

### 1. 大会概要

- (1) 日時：2009年1月10日（土）11日（日）
- (2) 会場：万博スポーツ広場（人工芝）、  
ガンバ大阪第1練習場（天然芝）、ガンバ大阪第2練習場（天然芝）
- (3) 趣旨：日本サッカー界の将来を担うユース年代の少年達のサッカーの技術の向上と健全な心身の育成を図ることを目的とする。
- (4) 主催：関西サッカー協会
- (5) 主管：大阪府サッカー協会
- (6) 後援：大阪府教育委員会
- (7) 特別協賛：株式会社ガンバ大阪
- (8) 参加資格：① 参加する選手は、日本サッカー協会（第3種）に加盟登録している者で都道府県協会が承認し個人登録済みの2年生以下の者に限り、地域代表選手として主管者が認めた者、又は、チームであること。  
② 関西の各府県より選ばれた選抜チームであること。  
Jクラブ4チーム(ガンバ大阪・セレッソ大阪・京都サンガ・ヴィッセル神戸)
- (9) 参加チーム 京都府トレセン・**和歌山県トレセン**・滋賀県トレセン・兵庫県トレセン・奈良県トレセン・大阪府トレセン・三島トレセン・南河内トレセン・ガンバ大阪・セレッソ大阪・京都サンガ・ヴィッセル神戸
- (7) 試合方法：① 12チームを4グループに分けリーグ戦を行い、決勝トーナメントを行う。  
リーグ戦の順位決定は下記の通りとする。
  1. 勝ち点（勝ち点は3点、引き分けは1点、負けは0点）
  2. 得失点差
  3. 総得点
  4. 当該チームの対戦結果
  5. 抽選② 試合時間は30分-5分-30分  
決勝・順位トーナメントにおいて、勝敗が決しない場合はPK方式により勝敗を決定する。  
③ 交代に関しては、競技開始時に登録した最大9名の交代要員の中から全員が交代できる。一度退いた競技者は再び出場することはできない。

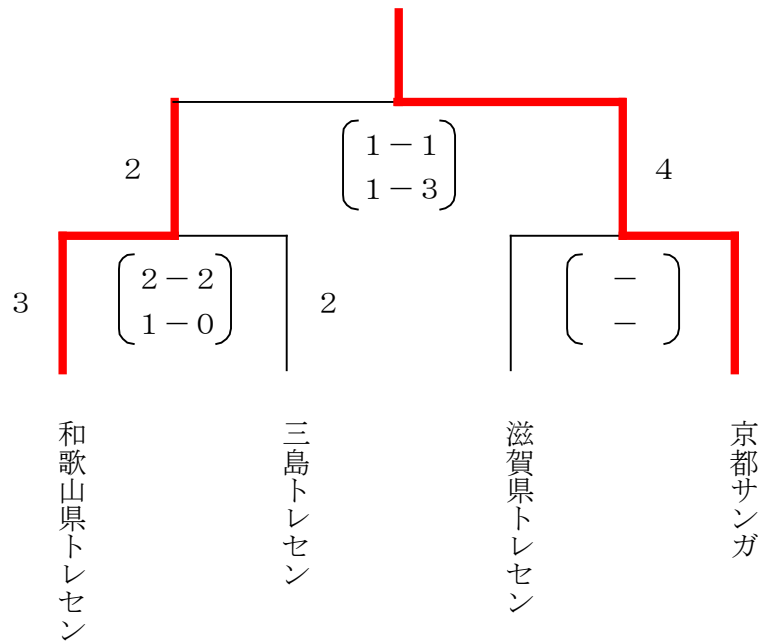
### 2. 大会結果

予選リーグ 1月10日（土）Aグループ 会場：万博多目的広場（人工芝）ガンバ大阪第2練習場（天然芝）

	セレッソ 大阪	大阪府 T C	和歌山県 T C	勝ち	負け	分け	勝点	得失	順位
セレッソ 大阪	***	●0-3	●0-4	0	2	0	0	-7	3
大阪府 T C	○3-0	***	○4-1	2	0	0	6	6	1
和歌山県 T C	○4-0	●1-4	***	1	1	0	3	1	2

順位トーナメント 1月11日(日)

2位トーナメント 会場 ガンバ大阪第1練習場(天然芝)、ガンバ大阪第2練習場(天然芝)



第6位 和歌山県トレセン

### 3. 目的

- ・リーグ戦及び順位トーナメントによる招集選手の現状把握
- ・近畿近隣各府県代表及びJ下部チームとの試合における選手強化
- ・チームコンセプトの理解、実践

### 4. コンセプト

例年同様、和歌山県トレセンU-14の活動は、8月合同合宿→8月関西トレセン→岸和田フェスティバル、そして今回のガンバカップ、3月の最終合宿と継続的な強化が行われている。

「個のレベルを上げる」ことはもちろん、成長期であるこの年代での新たな選手の発掘による入れ替わりはあるものの、今回の活動も過去の活動をベースにチームとしてのレベルアップを図ることをコンセプトの根底において今大会に参加した。

また、今回の参加選手が再来年度の和歌山県国体選抜のベースとなることも想定し、強化を図る。

#### ○全体

- ・闘うこと、激しいゲームをする
- ・自分たちからアクションを起こし攻守に関わり続ける
- ・コミュニケーション、コーチング
- ・見えている選手が指示を出す→原因と現象を探る
- ・良い準備と良い判断

#### ○守備

- ・ロングボールを蹴らさない→前線からの守備
- ・スペースを与えないブロック、ラインの形成
- ・ボールを奪われたら、すぐに奪い返す→素早い切り替えの徹底と質の高い守備

## ○攻撃

- ・攻撃の広がりや厚みの意識(特にゴール前の厚みのある攻撃)
- ・常に考えながらのプレー(頭を休めない)
- ・動きながらのスキルの発揮(パスの質、コントロールの質)
- ・コミュニケーション(強く動き出すことによってボール保持者への意思表示)
- ・バイタルエリア、トップを意識する(遠くを観る)
- ・スペースを共通で持つ
- ・サポートの質 (ボールがない時、ボールの移動中にどうする?)
- ・トライアングルの形成→点と線と面(面を意識してパスを出す)
- ・ボールを受ける選手がタイミング良くスペースやギャップに顔を出す→ボール保持者に多くの選択肢を創るためのサポート
- ・サイドの高い位置で数的優位を作る→そのための速いサポート
- ・色々なアングルからのサポート

## 5. 成果と課題

上記のコンセプトを基に、常にゴールを意識した中での前線からの積極的な守備からボールを奪い、全員が関わりながらトップ、ゴールを意識し、状況を判断したサポートの質でトライアングルを形成して数的優位を作り出しプレーの選択肢を増やしてゴールを奪うことを試合の狙いとした。特に、全員が関わりながら得点を奪うために年間を通じてトライアングルの意識を強調して取り組み、トライアングルを形成するための状況を観て判断して動き出すことやアングルのある良いサポートから点と線と面の意識、動き出しのタイミングの改善を図ってきた。

2日間で4試合行う中で、1試合目の相手が1年生のチームということもあり、プレッシャーがあまりない状況下ではパスやコントロール、ボールの運び方や置き場所等の基本技術を発揮することができ、前を向いたプレーの選択肢を増やしてゴール前までボールを運ぶことができたが、厳しいプレッシャーを受けると技術を発揮できずに数的不利な苦しい状況に追い込まれボールを失ってしまった。また、ボールを奪われ押し込まれる状況が続くとコミュニケーションも十分にとれないなど悪循環が繰り返された。特にコミュニケーションではU-15と同様に十分とれておれず、情報をお互いに伝え合えないため、相手の攻撃に対し自分のゾーンに入ってきた相手のマークはするが、ゾーンから出て行った相手に対して味方に声をかけて受け渡しをしない。攻守において味方の視野から消えている選手やスペースがあることを見えている選手が教えて上げないなど、見えている選手が一声かけるだけで十分対応できる場面が多く見られた。そのため守備では、ディフェンスの間、ハーフとディフェンスの間にポジションをとられるとマークが曖昧になり、そこから崩されることが多く見られた。

攻撃面では、トップが空けたスペースにボランチが飛び出すことや、ターゲットになり起点を作り攻撃の厚みの意識はあったが、サイドバックのボールを追い越す動きや大きなサイドチェンジによる幅の意識が少なくゴール前までボールを運ぶことはできるが完全に相手を崩すことができなかった。サイドを起点としてボールがゴールに向かってパワーを持っている状況のとき、ゴールを奪うためにオフの選手がスペースをつくり、使う動きを連続して行うなど全員が関わることができずにボール保持者がドリブルかパスの選択肢を増やせることができていなかった。

守備面では、準備の遅れから相手に攻撃の起点を作られ、守勢に回る時間が長くなってしまった。フォアチェックの意識はあったが、前線での積極的なプレスから中盤の高い位置(アタッキングサード)でのインターセプトを狙う意識をもっと高めてほしかった。また、クロスに対しての守備では、どうしてもマークとボールの同一視が困難になりボールウォッチャーになってしまい、相手FWに先に触られたり、ゴール前に人数はいるがマークが不徹底になり失点してしまう場面があった。

その中でも攻撃面では、アングルのある良いサポート、トライアングルの形成から点と線、面でボールを受ける意識の改善が見られるようになった。ただし、この年代で守備の習慣化がされておらず、奪われた後にす

ぐに奪いに行く、また試合の流れや状況に応じて考え判断してプレーを選択するということが今後の大きな課題である。

オフ・ザ・ピッチではチームの荷物を管理できなかつたり、宿舎に忘れ物したりなど、まだまだ未熟な部分が多かった。

対戦してみてよく分かることだが、Jクラブチームにはどのポジションの選手においても一定の基本技術の高さがあり、その中でも突出した「個の力」を持つ選手がいた。その選手一人の力で局面を打開し、大きな変化をもたらすチャンスをつくっていた。また、他の府県トレセン、大阪地区トレセンと比較しても基本技術の差は縮まりつつあるがまだまだ差はあるように思うので、基本技術の徹底、個人戦術のレベルアップの必要性が感じられた。

それぞれの試合の中での成果と課題は以下の通りである。

和歌山県トレセン U-14 参加選手					
背番号	氏名	ポジション	身長	体重	所属チーム名
1	谷口峻大	GK	175.0 cm	70.0 kg	和歌山大学附属中学校
2	川崎大輝	DF	156.0 cm	50.0 kg	岩出FC. AZUL
3	佐古将太	DF	172.0 cm	55.0 kg	岩出FC. AZUL
4	松本峻	DF	170.0 cm	53.0 kg	和歌山市立 紀之川中学校
5	中嶋泰仁	DF	165.0 cm	48.0 kg	和歌山市立 紀之川中学校
6	山内紀京	MF	156.0 cm	44.0 kg	和歌山市立 明和中学校
7	山路真司	MF	168.0 cm	52.0 kg	岩出FC. AZUL
8	鹿嶋夕斗	MF	160.0 cm	47.0 kg	和歌山市立 明和中学校
9	水落絢暉	FW	173.0 cm	58.0 kg	H.L.P デポルターレ U-15
10	奥田晃也	MF	172.0 cm	55.0 kg	三佐木アルマボーラ
11	馬崎直士	FW	165.0 cm	55.0 kg	和歌山市立 明和中学校
12	森岡佑平	DF	159.0 cm	50.0 kg	和歌山大学附属中学校
13	後藤慎也	MF	141.0 cm	33.0 kg	FC. GOLAZO
14	田口遼	MF	152.0 cm	38.0 kg	和歌山市立 紀之川中学校
15	下地皓太	MF	155.0 cm	43.0 kg	FC和歌山VIVO
16	宮本正明	GK	173.0 cm	65.0 kg	H.L.P デポルターレ U-15
17	大塚裕彬	DF	170.0 cm	60.0 kg	H.L.P デポルターレ U-15
18	松元大樹	FW	172.0 cm	68.0 kg	ミラグロソソ海南SC

1月10日(土) 予選リーグ① Aグループ

会場: ガンバ大阪第2練習場(天然芝)

12:02 kick off (30分-5分-30分)

和歌山県トレセン

対

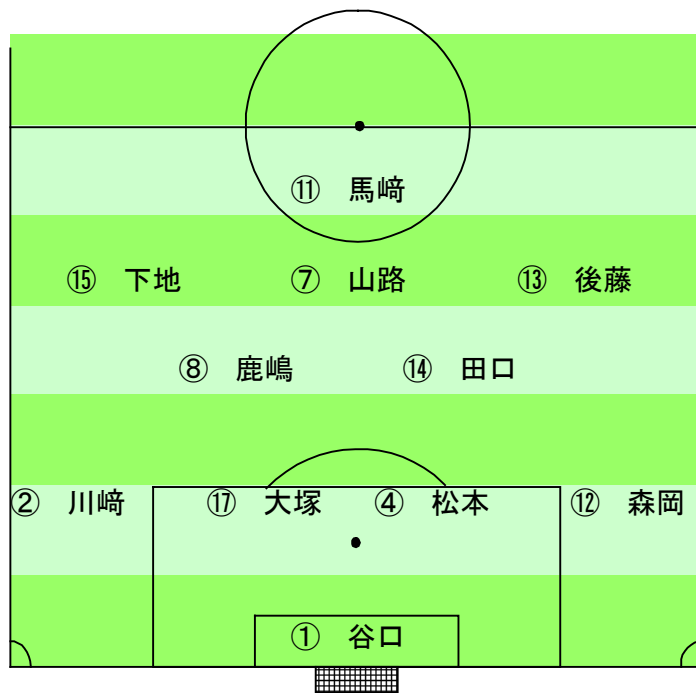
セレッソ大阪

4  $\left[ \begin{array}{ccc} 1 & - & 0 \\ 3 & - & 0 \end{array} \right]$  0

《前半》



《後半》



〈交代〉

時間	OUT	IN	備考
19分	⑨ 水落	⑧ 鹿嶋	
30分	③ 佐古	⑰ 大塚	
30分	⑤ 中嶋	⑫ 森岡	
30分	⑥ 山内	⑭ 田口	
30分	⑩ 奥田	⑮ 下地	
30分	⑯ 宮本	① 谷口	
30分	⑱ 松元	⑬ 後藤	

〈得点〉

時 間	チ-ム	得点者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
1 9分	和歌山	⑪ 馬崎	(中央)③パスカット→(中央)⑪右足S
3 4分	和歌山	⑦ 山路	(中央)⑮→(右)⑪～→(中央)⑦右足S
3 6分	和歌山	⑪ 馬崎	(右)⑫→(中央)⑪右足S
3 9分	和歌山	⑦ 山路	(中央)⑧→(左)②～↑(中央)⑦右足S

【成果】

- インターセプトに対する意識の高さ。パススピードが少しでも弱かったり、ある程度前線が方向を限定してきたら、ボールアタックに行く。
- タッチライン際でボランチとサイドバック、サイドハーフとの連携でリスクを管理し、相手攻撃を遅らせる中で中盤にブロックをつくり、ボールを奪取する。
- 1 トップが引いて空けたスペースにサイドハーフが入り、高い位置でボランチからのボールを受け、さらに引いていたトップがボールを追い越す動きでディフェンスラインをかく乱する連続性のある攻撃。
- 相手ディフェンスラインの状況を観ての効果的なサイドハーフからのミドルシュート。
- ボランチにボールが入った時サイドハーフのDFライン背後のスペースを狙うためのアクション。
- 前線、中盤でのプレッシャーが厳しくない状況では、ボールを自分たちのペースで回すことができた。特に中盤で前を向いたプレーの選択肢を増やせた。

【課題】

- ボランチが並んで下がってしまい守備の厚みが作れない。
- 守備から攻撃に切り替わった時、全力で前へ攻め上がる。休まない。
- トライアングルを意識してスペースに出ることも大切だが、状況によってはボールに寄ることもあるのでオフのポジションで周りの状況をしっかり観てアクションを起こす。
- リスタート、動きながら観る。
- ビルドアップ時に優先順位を生かしたトップの動き出しやサイドハーフのアクションからボールに対して顔を出すボールを引きだす効果的なサポートが少ない。アクションで相手の変化を起こし、もっと勇気を持ってボールを受ける。
- ボランチにボールが入った時にサイドバックはボールを追い越すような大きな動きで積極的に関わる。
- 幅と厚みを持ったポジショニングからしっかりとポゼッションし、サイドチェンジなどのパスやドリブル、味方のアクションに反応する相手の変化を観て、隙があれば(意図的に隙を作り出し)前にボールを入れる。そこに多くの選手が関わるような意図的な組み立てができる。ゴールへ向かうためのポゼッション。
- 前方にスペースがある時のサイドバックの高いポジション取りからのしかけ。
- FWが高い位置でターゲットになりボールを引きだしたり、くさびのボールをしっかり収めてキープできないとチームとしての攻撃のリズムが作れない。
- FWがボールサイドに寄ってしまい、身体の向きが外向きになってしまう。
- 高い位置でのボールを奪われたら奪い返す意識が少ない。
- サイドの選手は縦へのアップダウンの運動量を増やす。
- 後半、慌てすぎて中盤をとばしてロングフィードばかりの攻撃になる。中盤、前線の選手は走ることばかり考えないで、ボールを受けることも考える。

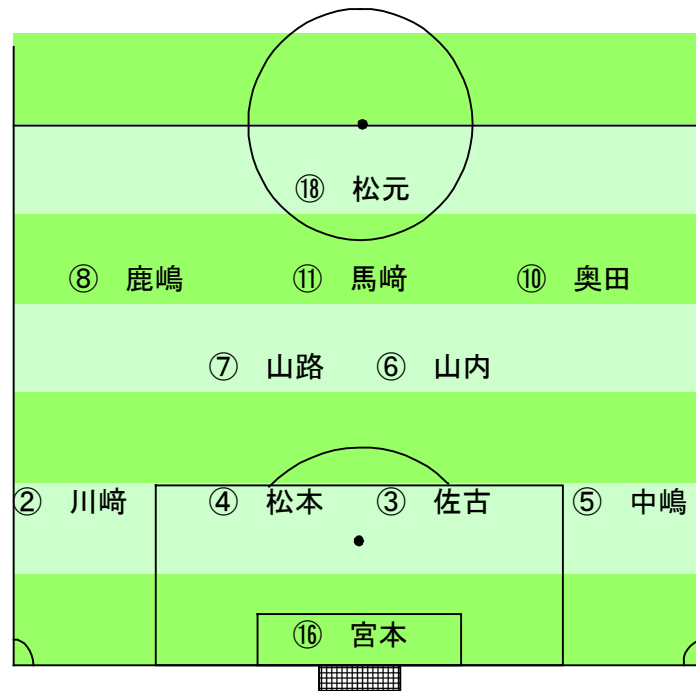
和歌山県トレセン

対

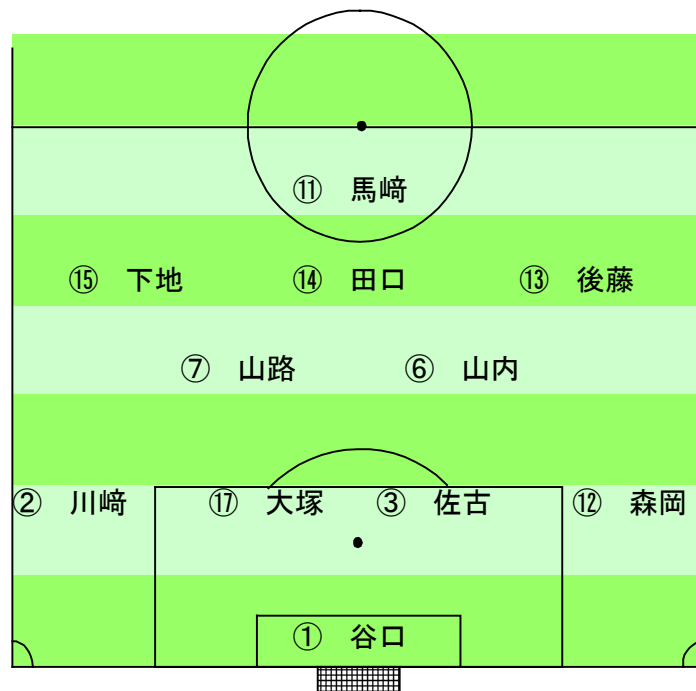
大阪府トレセン

$$1 \left[ \begin{array}{cc} 1 & - & 2 \\ 0 & - & 2 \end{array} \right] 4$$

《前半》



《後半》



《交代》

時間	OUT	IN	備考
30分	④ 松本	⑰ 大塚	
30分	⑤ 中嶋	⑫ 森岡	
30分	⑧ 鹿嶋	⑮ 下地	
30分	⑩ 奥田	⑬ 後藤	
30分	⑯ 宮本	① 谷口	
30分	⑱ 松元	⑭ 田口	

〈得点〉

時 間	チー ム	得 点 者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
1 分	和歌山	⑧ 鹿嶋	(右)⑩↑(中央)⑧右足S
2 分	大阪	⑩	パスミス(中央)⑩～右足S
2 3分	大阪	⑨	(右)⑩↑(中央)⑨右足S
5 3分	大阪	⑬	(中央)⑤↑(中央)⑬右足S
6 2分	大阪	⑪	(中央)⑬→(右)⑪右足S

【成果】

- サイドチェンジのパスが出た瞬間にサイドバックが前の選手をタイミング良く追い越す動きで数的優位を作り出し最後までプレーをやりきる。
- FWが空けたスペースにボランチが飛び出し、ゴール前に枚数をかけた厚みのある攻撃ができた。
- タイミングの良い手数をかけないパスでサイドの高い位置で攻撃の起点を作り、MFのFWを追い越す動きから、逆サイドのサイドハーフが駆け上がったの攻撃でしかけるプレー。

【課題】

- 相手ボール保持者との距離が遠いと簡単に前方に蹴られてしまう。
- 相手の攻撃を予測しながらチャレンジとカバーを繰り返す基本的なプレーの徹底とそのためのコミュニケーション。
- 相手FWに自由を与えない積極的なチェックやカバーリング。
- ゴール前やペナルティエリア付近でのリスタート。人を見る、しっかりマークをつかむ。
- ボールに近い選手がアプローチをかけ、もっと相手の近くで粘り強く対応する。特に中央では前を向かれてももっとよる。前方に簡単にパスを出されない。
- サイドバックのカバーリングで高い位置から狙う。
- ゴール前でサイドに展開された時、逆サイドの選手が中央への絞り込みが甘く、ゴール前中央で相手選手をフリーにしてしまう。
- 相手のサイドチェンジに対して、最終ラインがスライドしながらマークを受け渡すことができず結果的にマークのズレが生じて相手に裏をとられてしまう。
- 相手がディフェンスライン裏にロングボールを入れてきた時、センターバックが前から競りに行った時のサイドバックのカバーリングが遅れる。
- 最終ラインでボールを奪った際、中盤の押し上げ、特に逆サイドの押し上げが遅れて中盤とトップが間延びしてしまいボールがトップに入らず効果的な攻撃につながらない。
- ボールを奪ったらまずトップを観る。
- 相手の嫌がる良いポジションをとる。
- アングルのあるサポートから、相手の状況や味方の状況を観る。
- ボールの動かしが遅く、(ボールを)止めて(味方を)探してからパスで相手に読まれてインターセプトされるケースが見られた。
- ボランチからトップにボールを入れた時に自分のマークを見失わないようにする(リスクマネジメント)。
- ミドルサードでスペースがある時は、自分からしかける。最初からパスのみの判断では相手に予測されボールを失う。
- ボールから遠いところでポジションが取りアクションを起こす。
- 攻守においてボランチはお互いの角度、距離を考える。

1月11日（日）2位トーナメント①

会場：ガンバ大阪第1練習場（天然芝）

14:30kick off（30分-5分-30分）

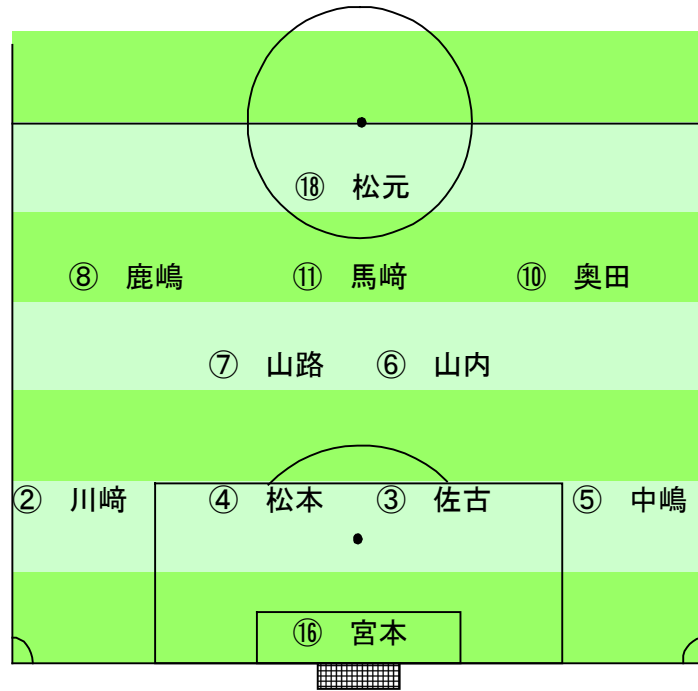
和歌山県トレセン

対

三島トレセン

3  $\left[ \begin{array}{cc} 2 & - & 2 \\ 1 & - & 0 \end{array} \right]$  2

《前半》



《後半》



〈交代〉

時間	OUT	IN	備考
30分	④ 松本	⑰ 大塚	
30分	⑤ 中嶋	⑫ 森岡	
30分	⑦ 山路	⑭ 田口	
30分	⑧ 鹿嶋	⑮ 下地	
30分	⑩ 奥田	⑬ 後藤	
30分	⑯ 宮本	① 谷口	
30分	⑱ 松元	⑨ 水落	

〈得点〉

時 間	チー ム	得 点 者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
6 分	和歌山	⑦ 山路	(右)⑩→(右)⑱→(中央)⑦右足S
1 3 分	和歌山	⑧ 鹿嶋	(左)⑪↑(中央)⑧右足S
2 6 分	三島	⑪	(右)③→(中央)⑪右足S
2 7 分	三島	⑪	バックパスミス⑪～左足S
5 3 分	和歌山	⑨ 水落	(左)FK②↑(中央)③H↑(中央)⑨HS

【成果】

- トップのオフのかけひきでシンプルにセンターバックからボールを引きだすダイレクトプレーの意識。
- トップの動き出しのタイミングからオフでゴール前の状況を観て、スペースに飛び出しゴールを奪う。
- 相手が中央を固めてきたらサイドを使い、サイドを使いながら中央が空いてきたらバイタルエリアにしかける変化のある攻撃は相手守備陣を混乱させる。
- 中央の相手守備陣が集結集中せざるを得ない DF ラインとボランチラインの間を手数をかけない細かいパスやドリブルで進入、攻略してDF ラインを崩す。

【課題】

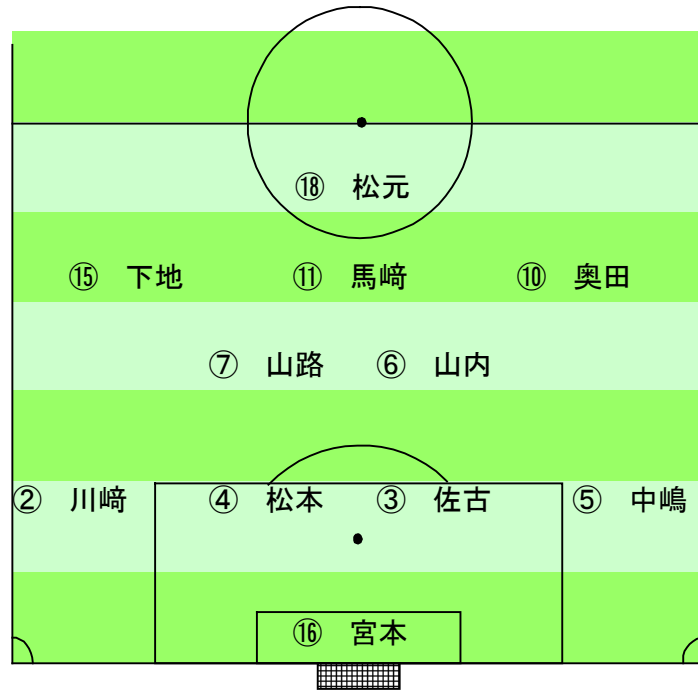
- ファーストディフェンダーは同じポジションばかりからディフェンスに行かない。ボール、相手が動くことによってスタートポジションは変化する。セカンドディフェンダーはカバーのポジションをとりながらコーチングをする。
- ボール周りの選手が全員ボールに食いついてしまい、ドリブルで管に突破されてしまう。
- ゴール前では相手に身体の体軸を当てて自由を奪う。ブロックして相手に前に入られない。
- 味方、相手、スペース、ボールの状況を良く観てポジションを変える。変化が起これば同じポジションにいない。
- ボールを奪ってからの素早い攻撃（ファストブレイク）。切り替わりのタイミングを見ての動き出しのタイミング。
- パスの質。縦へのパスは強く。
- トップのアンクルのあるサポートから、相手の状況や味方の状況を観る。
- トップの選手が動いてできたスペースへ中盤の選手が飛び出したり、相手の裏へのスペースへワンツースで抜け出すといった動きをタイミング良く連続して行うことで相手守備は混乱する。そのためにトップばかり見ない、スペースも見る。
- HF、FW並ばない。厚みをつける。
- 高い位置で前を向けたらゴールに向かうプレー(動き、ドリブル、シュート)でしかける。
- 早い動きだしと豊富な運動量で作り出した時間とスペースを、サイドバックが駆け上がって攻撃をしかけるプレーが見られなかった。
- ボランチにボールが入る前にサイドバックはアクションを起こし、入った時にはボールを追い越すような大きな動きで積極的に関わる。
- 自チームの攻撃時に最終ラインは守備の対応ができる体勢、マークの確認、バランスがとれていないために、中盤で切り替わった時にディフェンスラインの枚数が足りなく失点する。
- 得点を奪った後の切り替えが遅く集中力を切らしてしまい、不用意なファウルからPKを与えてしまったり、失点する。

1月11日（日）2位トーナメント②

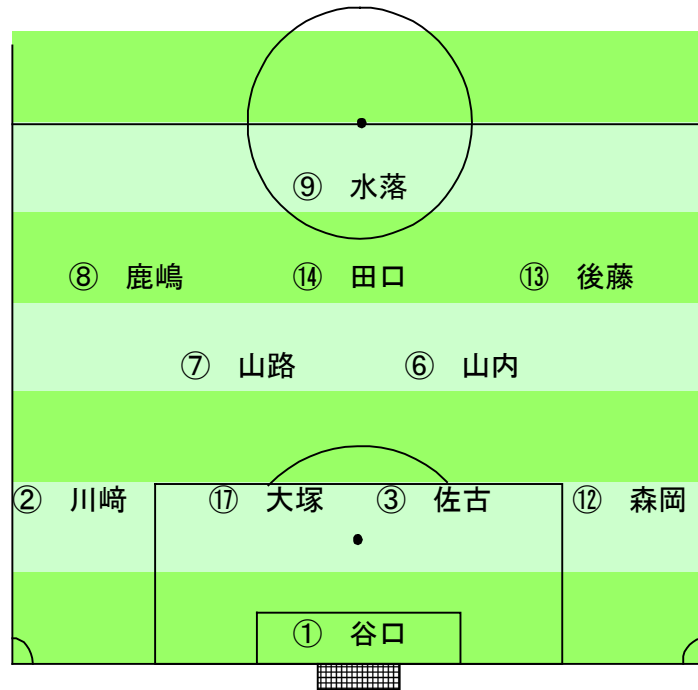
会場：ガンバ大阪第2練習場（天然芝）  
14:30kick off（30分-5分-30分）

和歌山県トレセン 対 京都サンガ  
2  $\left[ \begin{array}{cc} 1 & - & 1 \\ 1 & - & 3 \end{array} \right]$  4

《前半》



《後半》



〈交代〉

時間	OUT	IN	備考
30分	④ 松本	⑰ 大塚	
30分	⑤ 中嶋	⑫ 森岡	
30分	⑩ 奥田	⑬ 後藤	
30分	⑪ 馬崎	⑭ 田口	
30分	⑮ 下地	⑧ 鹿嶋	
30分	⑯ 宮本	① 谷口	
30分	⑱ 松元	⑨ 水落	

〈得点〉

時 間	チー ム	得 点 者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ↑:浮き球パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
1 1分	和歌山	⑪ 馬崎	(左)④パスカット→(左)②↑(中央)⑪右足S
3 0分	サンガ	③	(左)C K⑬↑(中央)③HS
3 4分	サンガ	⑮	(中央)⑪パスカット～→(中央)⑮右足S
4 3分	サンガ	⑬	(左)⑤↑(中央)⑬～右足S
5 7分	サンガ	⑪	(右)⑫↑(中央)⑪左足S
5 9分	和歌山	⑨ 水落	(中央)⑦→(中央)⑨右足S

【成果】

○粘り強い守備からのカウンターで、FWがターゲットになりボールを引きだしたり、くさびのボールをじっくり収めてキープし、2列目からの飛び出しやサイドのオープンスペースにサイドバックのタイミングのよいオーバーラップなど幅・厚みのある攻撃。

【課題】

- 前線からのプレスやパスコースを切って相手がボールを下げた状況で、3ラインを保ちながらラインアップした時にポジション、マークを確認する。
- くさびのボールに対してはもっと強くディフェンスに行く。
- ペナルティエリア内やゴール前での粘り強い厳しい守備。
- センターバックでボールを奪った後、ドリブルスタートして自陣でボールを奪われるとゴールに結びついてしまう。ビルドアップ時に優先順位を生かしたトップの動き出しやサイドハーフのアクション、ボランチの効果的なサポートから早くパスコースを探し出し、ワンタッチのタイミングを意識して突破を狙う。
- 中盤でインターセプトした時に早く味方にボールを預ける。ボールを失わない。
- ファーストタッチにミスが起こった時に相手のプレッシャーを受け、無理な体勢からパスを出してボールを奪われる。ボールを簡単に失わない（ボールをさらさないスクリーンする技術）、キックの精度（特にワンタッチパス）やコントロールの正確性、スペースへのボールの運び方等スキルの向上とプレーをやり直す判断。
- 足元へのパスが狙われている時にもっと周りがアクションを起こし相手の裏を狙う。
- トップの位置をもっと意識する。
- ボランチが相手のFW、MFの間の狭いスペースでディフェンスからのボールを引きだし、相手の守備の状況によって展開してボールを前に運ぶ。
- 縦への攻撃、同サイドの攻撃もいいが、サイドチェンジも使いながら大きく変える。
- サイドハーフのスタートポジション、高い位置から。
- サイドハーフはドリブルで中のスペースにボールを運び出した時に、自分が空けたサイドのスペースを意識する。サイドバックはそのスペースを使う。
- 自チームの攻撃時に最終ラインは守備の対応ができる体勢、マークの確認、バランス、味方の状況を観る。
- 後半、残り時間が少なくなると縦に急ぎすぎ、サイドハーフ、サイドバックを使った幅のある攻撃が見られなくなった。